

広報

もり

中部の森林

写真：「カヤの平高原の初冬」(木島平村観光振興局提供)

私の森語り!「SDGsと花鳥風月」
オンサイテック(株) 代表取締役社長 西澤 久友

特集 現地検討会～技術等の向上を目指して～

- ・山間部の通信環境導入の取組
- ・流木災害対策の実現に向けた取組
- ・地域林業の生産性向上を目指して
- ・効率的な立木の集材作業

各地からのたより

- ・国有林野等の所在する市町村長等との連絡協議会を開催

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業、お役に立ちます国有林



2021/No.213



林野庁中部森林管理局



スゴ谷工事現場における通信環境導入のシステム構成

山間部の通信環境導入の取組

【富山森林管理署】
とやま

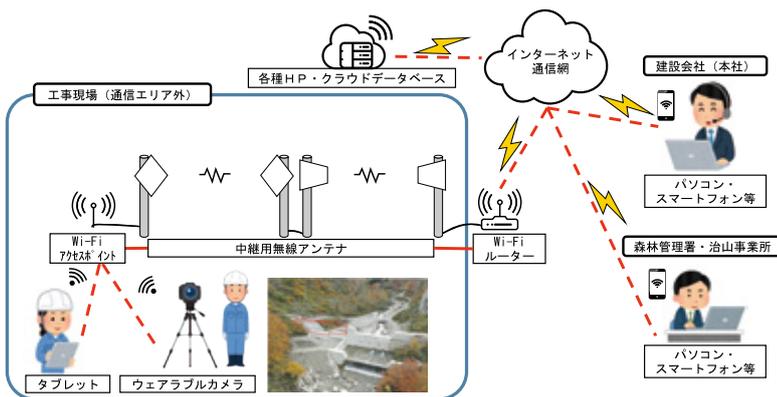
十月十五日、十八日、常願寺川
みんゆうりんちゅうかつかつせんじょう
民有林直轄治山事業のスゴ谷工事
現場において、地元自治体や工事
関係者等を対象に、携帯電話不感
地域における通信環境導入の取組
に関する現地見学会を開催しまし
た。

林業や森林土木事業を実施して
いる山間部は携帯電話不感地域で
あることが多く、緊急時の連絡や
気象の急変等の情報把握に時間を
要することから、労働安全の確保
のため、通信環境の導入に関する
要望は、工事関係者から多くあり
ます。

また、近年の通信技術の向上に
より、リアルタイムで映像情報の
共有が可能となっており、ウェア
ラブルカメラ等により撮影した現
場映像・音声を Web 会議システ
ムなどを利用して転送し、離れた
場所で現地確認、立会等を行う
「遠隔臨場」の取組が進められてい
ます。

さらに、レーザ計測データや森

林クラウドの整備等も進められて
おり、近い将来、生産性や安全性
の飛躍的な向上や需要に応じた高
度な木材生産を可能とする「ス
マート林業」の実現が期待されて
います。
しかし、これら新たな技術を活
用するためには、多くの場合、現
場において通信環境が確保されて
いることが重要な要件になると考
えられます。



通信環境導入のイメージ (インターネット通信)



今回使用した交換・撤去が可能な通信機器類

このため、当署では携帯電話不感地域である治山工事の現場において、昨年度から、フレキシブルに設置・撤去が可能な無線通信装置（小さい通信基地局をイメージして下さい。）を活用して通信環境を導入する取組を進めてきました。

今回の取組では、昨年度把握された課題のうち、現在設定しているシステム構成の起点（現場周辺の通信可能な箇所）における通信速度の低さに対処するため、通信事業者の協力も得ながら現場周辺の各地点における通信速度のシミュレーション、電波増幅器による通信速度改善効果の確認等を行ったところです。

現地見学会では、現場に導入された通信環境によりWeb会議システムを利用して現地映像の転送による工作物の出来形確認や音声による会話、各種Webサイトへのアクセス等について、参加者が所有しているスマートフォンやタブレット端末を使って体験していただき、通信が繋がった時には、多くの歓喜の声が上がりました。

その後に行われた意見交換では、「若い技術者等は通信環境のない工事現場には行きたがらない」、「火山地域など危険な工事現場では安全を確保するため無人化施工を進めてもらいたいが、通信環境がなければ対応できないところもあるのではないか」など多

くの意見・要望をいただき、人材不足が深刻化している中、現場での通信環境の確保は切実な課題となっており、ICT施工等に繋がると期待の高速・大容量通信への期待の大きさを感しました。



現場でタブレット端末を使用する様子

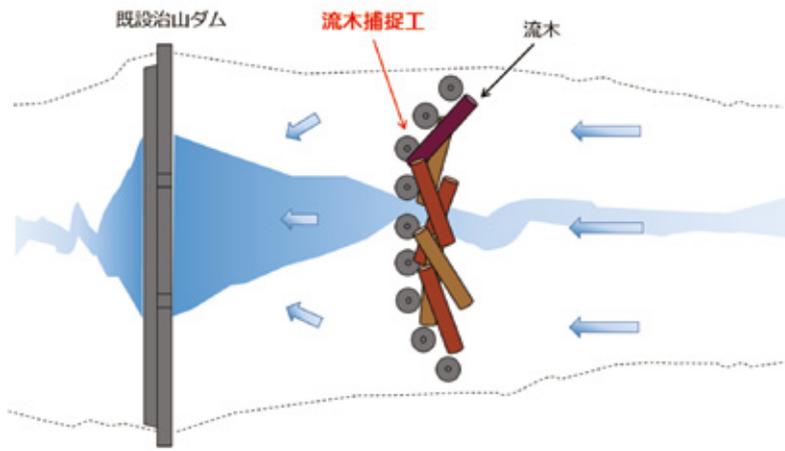
通信環境導入の取組については、現在、富山県内でも各地で様々な実証実験等が行われつつあります。

また、現場条件によっては、各通信事業者の基地局や光ケーブルによる対応も含め、様々なソリューションの組み合わせが有効である場合も想定されます。

このため、今後は、通信環境を求める各機関が連携して、通信技術に関する情報を共有し、現場条件に応じた通信機器やシステム構成に関する基本的な知識を習得するとともに、通信事業者や開発事業者等の協力も得られるよう、幅広い関係者との繋がりを深めていくことが重要であると考えています。

当署では、このような状況を踏まえ、来年度以降も通信環境導入技術の向上を図るとともに、スマート林業の実現に向けて、各関係機関と連携を図りつつ、ICT施工技術や森林クラウドの利用技術の検討も進め、地域全体の横展開に貢献できるよう取り組んでまいります。





独立基礎型流木捕捉工の配置イメージ図



流木災害対策の

実現に向けた取組

【沿山課・東濃森林管理署】

十月二十八日及び二十九日、岐阜県恵那市上村恵那国国有林ホコロ沢及び東濃森林管理署において、学識経験者による現地調査及び検討会を開催し、職場内研修の一環として署員もオブザーバー参加しました。

気象変動に伴い豪雨の発生が激化する予測される中、森林の災害防止機能を一層高度に発揮させるため、林野庁において「豪雨災害に関する今後の治山対策のあり方検討会（令和三年三月）」が開催され、洪水流量の増加による流木災害の激甚化が課題の一つとして、取り上げられています。

中部森林管理局では、流木災害の事前防災・減災対策を実現させるため、新たな流木捕捉技術として「独立基礎型流木捕捉工」を考案し、これまでにホコロ沢を含めた管内四現場において、試験施工を実施してきました。今回、昨年度に策定した「独立基礎型流木捕捉

工設計・施工ガイドライン」に引き続き、今年度は「(同)調査・計画ガイドライン」を策定すべく検討を進めており、その一環として学識経験者からなる検討委員会で現地調査等を実施しました。

二十八日の現地調査では、独立基礎型流木捕捉工の周辺に設置してある定点カメラが八月の豪雨で発生した流木の捕捉を記録したことから、その流木捕捉状況と上流域の溪畔林等を確認しました。

二十九日の検討会では、この現地調査を踏まえ、これまでの検討会で検討してきた流木発生範囲に存在する立木量及び倒木量の算定方法に加えて、流木流出量の算定方法に関し、学識経験者の委員から航空レーザ計測など新技術の活用、溪畔林の防災効果とその保全の必要性など貴重なご意見をいただきました。

今後も、地域の安心・安全を確保するため、流木災害の事前防災・減災対策の実現に向けた取組を進めてまいります。

地域林業の

生産性向上を目指して

【富山森林管理署】

九月三十日、富山県富山市長棟

国有林において、林業事業者等を対象とした生産性向上実現プログラム現地検討会を開催しました。これは、事業者の育成を念頭に木材生産事業受注者の協力により、地域林業の生産性向上を目指して行っているものです。

当日は、事業を受注している飛騨市森林組合から、高性能林業機械を使用した、伐倒から運材までの一連の作業システムの紹介・実演がありました。

その後は、意見交換を行い、参加者からは、「作業の加速化を図るため二班体制とした」、「作業工程が複雑になったことで生じる林業機械の待機時間などの生産性低下への対処」、「日報を活用した作業の効率化」、「工程管理の見える化」などについて、活発な意見交換が行われました。

検討会を行った作業現場から、最終土場までのトラックの運搬距離



フォワーダーの林内移動の様子

離が遠いことや、丸太を巻き立てする山土場が狭いことなどの現場条件に対し、当署としても、丸太材積の計測の検査体制を拡充するとともに、トラック運搬により傷んだ林道路面を速やかに補修するなど、生産性向上のボトルネックを生じさせないよう努めているところです。

今後とも、地域の林業事業者との情報共有・意見交換を通じて地域林業全体の生産性向上に貢献できよう取り組んでまいります。

効率的な立木の集材作業

【飛騨森林管理署】

十月二十日、岐阜県高山市麦島

国有林において、当署の素材生産事業を行う請負事業者、岐阜県及び高山市の職員等二十四名が参加する生産性向上実現プログラム現地検討会を行いました。

生産性の向上は、国有材の安定的かつ効率的な供給はもとより、林業事業者の経営安定化や担い手の育成等の林業成長化にも繋がることから、当署においては平成二十七年年度から毎年、モデル事業地を設定し、工程管理の見える化やボトルネックの改善に取り組み、一人一日当たりの生産性を高めることを目的として取り組んできました。

今回検討会を開催した事業地は、「立木の伐採」から「地拵（苗木の植栽をするために行う林地の整地作業）」まで行う伐採・造林一貫作業を導入しており、事業実施者から伐採・搬出などの集材作業の効率を高めるため既設作業道との間隔をみて新たな作業道を作設す



現地で説明を聞く参加者

国有林野等の所在する市町村長等との連絡協議会を開催

【企画調整課】

十一月二十二日、中部森林管理局の大会議室において、管内十地区の「国有林野等所在市町村長有志協議会」（以下、「有志協」）の代表者の出席（うち九地区からは市町村長）を賜り、連絡協議会を開催しました。

有志協は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図るため、昭和五十二年以降、管内各地区に設置し毎年開催しています。この連絡協議会は、各地区の有志協における意見・要望を集約する場となっております。

林野庁からは橘国^{たちばな}国有林野部長な



白鳥伊那^{しろとり}市長、茅野^{ちの}上田市課長、小林朝日^{こばやし}村長、日臺木島^{ひたい}平村長、田中^{たなか}南砺市長

どが Web 形式にて参加し、林政の最近の動向について説明しました。また、代表者からは、地元自治体での取組、近年多発する自然災害の早期復旧及び予防対策の要望、国有林野の利活用による観光振興、獣害被害への対応、市町村職員への技術の普及や林業後継者の育成など、様々な意見・要望のほか、署等職員が取組へのお礼が寄せられました。

本連絡協議会は、カーボンニュートラル等の持続的な社会の実現に向け、森林・林業の果たす役割が非常に期待されている中、民有林と国有林が知恵を出し合い、連携することの重要性を再認識した、貴重な意見交換の場となりました。



唐澤^{からさわ}木祖村長、國島^{くにしま}高山市長、山内^{やまうち}下呂市長、青山^{あおやま}中津川市長、土屋^{つちや}設楽町長

木曾郡内四町村と山地災害時の連携協定を締結

【木曾森林管理署】

十月二十五日、上松町、木祖村、王滝村及び木曾町と当署は「山地災害発生時等の連携に関する協定」の調印式を当署において、各町村長らの出席のもと行われました。

本協定は民有林において山地災害が発生した場合に、当署が迅速に支援するための事項を定めています。

協定締結の背景には、近年国内で起きている、大規模災害発生時の対応を想定し、当署から管内四町村に提案し、賛同をいただいたことから協定締結に結びついたものです。

協定内容には、各町村の要望を聞き取り助言する連絡員の派遣をはじめ、ヘリコプターやドローンなどによる現地調査の情報提供、国有林専用道の活用や支援物資の提供などが盛り込まれています。

今回のような協定は中部森林管理局管内では、はじめてとなっております。



左から大屋^{おおや}上松町長、唐澤^{からさわ}木祖村長、青木^{あおき}木曾署長、瀬戸^{せと}王滝村長、木曾^{たかはし}町長代理（高橋農林振興課長補佐）

調印式での署名後、当署長から「今後は、協定に基づき災害時に迅速かつ円滑な対応を図っていきたい」との挨拶を述べ記念撮影を行いました。

協定の締結により、木曾森林管理署と各町村との連携が、これまでに以上に強化されるものと期待されます。

あまともトレイル開通記念式及び
記念ツアーの開催

【北信森林管理署】

十月二十三日、長野県信濃町公民館において、妙高戸隠連山国立公園連絡協議会主催により「あまともトレイル開通記念式典」が開催されました。



あまともトレイル開通記念式典の様子

あまともトレイルとは、長野・新潟両県にまたがる妙高戸隠連山国立公園を中心に、地域の見どころ(善光寺・黒姫・野尻湖など)を巡るルートとなっております。長野駅

から斑尾山を結ぶ全長約八六キロメートルのロングトレイルです。

式典当日は、横川信濃町長、入村妙高市長をはじめ多くの方々が出席されました。式典後は、野尻湖周辺から妙高高原ビジターセンターまでの約一〇キロメートルのコースを歩く記念ツアーも行われ、約五十名が参加しました。



コーディネーターによる記念ツアーの様子

天候は曇りや小雨といった状況でしたが、虹も見えるとといった記念ツアーに彩りを添えるシチュエーションもあり、自然を感じながらツアーを楽しみました。引き続き当署としても国有林野を活用した地域振興等に寄与することとして積極的に活動していきたいと考えています。

森林ボランティア・
NPO連携推進会議の開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

九月三十日、森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じ更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、今後の活動の方向性を検討することを目的に「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が塩尻市の長野県林業総合センターで開催されました。

当日は、ボランティア団体・NPOから十三名、森林管理局署等から九名の参加があり、主催者・来賓挨拶の後、林業総合センターの職員の案内により研究林を見学しました。



研究林の見学の様子

その後、三班に分かれ『この会(連携推進会議)をどうする?』というテーマで意見交換が行われ、各班からは、「ボランティア団体の交流の場として継続する。未参加団体への参加の呼びかけと情報提供を行う」、「やりがいを感じられる内容とする」などの意見が出されました。



ワークショップでの意見発表の様子

なお、例年は一泊二日で開催し、研修会や「森・ふれあいフェスタ」などで一般の方との交流を図ってきましたが、昨年は新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止となり、今年は規模を縮小しての開催となりました。



ボランティアによるチップ散布の様子

出しなどの状況が顕著となつたため樹木の保護を目的に、根の周りに林道周辺の残置枝条や短材を破碎した木端三〇ト

【東濃森林管理署】
十一月十日、付知峡自然休養林自然観察教育ゾーン（加子母裏木曾国有林）内にある銘木「合体木」と初代大檜」の保全整備を、付知町まちづくり協議会など市民団体や中津川市、岐阜県恵那那農林事務所など行政機関が参加してボランティア作業が行われました。
この合体木は、ヒノキとサワラが成長過程で密着し一本の幹になり、非常に珍しい状態で生育しています。この木を見ようと、多くの見学者が訪れるようになったことから、踏み付けによる根のむき

「合体木」「初代大檜」周辺整備
市民ボランティア等
による保全活動



合体木周辺の保護作業を終えて

を敷き詰めました。
初代大檜では、周辺の草刈りを行い、その後、護山神社の宮司が「地球の自然を調和せしめまいて」と自然災害の鎮まりを祈願する神事（清祓詞）が行われました。
初代大檜は、直径二・四メートルあつた裏木曾一の巨木といわれ御神木として崇められていました。が、一九三四（昭和九）年の室戸台風で折れ、その後伐採され、今ではその切り株が現地に保全されています。
今回の活動で、地域の貴重な資源（宝物）を住民が協力して守っていく気運が高まりました。当署では、今後も地域における活動を積極的に支援していくこととしています。



大鹿村長が率先！刈払機で作業

また、植栽木に覆い被さるるようにススキが一面に繁茂し、足下はイバラや石が転がっている

【南信森林管理署】
十月二十九日、大鹿村鹿塩地区の大池農地において、大鹿村育林祭（大鹿村主催）が、地元住民をはじめ自治体職員等関係者が参加して開催されました。
はじめに、熊谷大鹿村長から令和元年度に大鹿村制百三十周年記念に植樹したクリノキの下刈作業の説明に続いて、当署の小林署長が祝辞を述べました。
現地は標高一、四〇〇メートルの平坦な場所です。植栽したクリノキはニホンジカの食害から守るためにシカ防除ネットが巻かれています。ネットから出ている木の先端や葉は既に食害を受けています。

令和三年度
大鹿村育林祭に参加



植樹記念碑の前で記念撮影

状況でしたが、肌寒かったこともあり一時間に予定していた刈払作業は四十分程で終了し、ススキの茂っていた造林地の見通しが利くようになり、今後の生育条件の向上が期待できます。
最後に植樹記念碑の前で記念撮影が行われた後、大鹿村産カラマツを使用した木製スマートフォン立てがプレゼントされ、育林祭が無事に終了しました。
昨年と比べ、今回は参加者も増え、賑わいを取り戻しつつあると実感した育林祭でした。

〈各地からのたより〉

実践研修「中部ブロック研修」に
全国から十名の受講生が参加



【森林技術・支援センター】

十一月十日から十二日、下呂市
民会館において開催された令和三
年度実践研修「中部ブロック研修」
に、県や国有林職員など八県から
森林総合監理士等の資格を持つ受
講生十名が参加しました。

当該研修は森林整備計画の策定
等の指導・助言の役割を担う森林
総合監理士等の継続教育を目的に
全国五ブロックで実施しています。

中部ブロックでは、「伐採・造
林一貫作業システムと木材流通」
をテーマとして、中部森林管理局
の伐採、造林、木材流通の各担当
者が講師となつて、受講生が現場
レベルで活動を実践していく際
に、必要な知識や技術の向上を図
れるよう講義等を行いました。

受講生は、第一日目には伐採・
造林一貫作業の留意点を中心に講
義を受け、木材搬出の机上案を作
成しました。第二日目は岐阜署管
内の乗政国有林（のりまさ）において搬出計画
の現地検討等を行い、午後から下



木材市場にて採材方法等の視察状況

呂総合木材市場を視察しました。
第三日目は各班で伐採・造林一貫
作業計画を作成し、検討結果を発
表して質疑応答を行いました。
受講生のアンケート調査では、
「現場状況等に応じた搬出方法の
選択、低コスト造林や市場のニー
ズを踏まえた採材方法等について
理解が深まり、現場における課題
解決力の向上を図ることができ
た」といった調査票が提出される
など、技術力維持・向上への一助
となる研修となりました。今後も
研修の現地実行スタッフとして、
内容の充実に努めたいと考えてい
ます。

町たんけん
〜地域のことを調べよう〜



【愛知森林管理事務所】

十一月十一日、新城市立庭野小
学校二年の児童が、当所を訪れま
した。

これは、地域にある森林管理事
務所ってどんなところ？という疑
問から「町たんけん〜地域のこと
を調べよう〜」学習で、訪問・説
明をお願いしたいとの小学校から
の要請を受け実施しました。

当日、元気な声で「おはようご
ざいます」とのあいさつで二年児
童六名が当所へ到着しました。

事務室の中の児童は、「いい匂
いがするね」、「壁も床も全部木だ
からかなあ」など友達同士の会話
が聞こえ、興味津々な様子がか
がえました。

職員からは、プロジェクターを
用いて、森林のしくみを説明し、
事前質問には、低学年にもわかり
やすいように工夫をしながら一つ
ずつ丁寧に回答しました。

質問時間では、たくさん質問
があったり、また、全員が実際に



植付け器の体験をしている様子

植付け器を持つ体験を行ったり、
充実した学習となりました。
後日、小学校から「森林管理事
務所のことがよくわかりました」
「質問もいっぱいさせてくれてあ
りがとうございます」などの感想
が寄せられました。
先生からは、次年度もぜひお願
いしたいとの話もあり、大変好評
だったようです。
今後も地域との繋がりを大切に
し、森林、林業に関する情報発信
を行っていきます。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【富山森林管理署 上市森林事務所】

森林官 百瀬 裕章

上市森林事務所は、富山県東部の中新川郡上市町に所在し、上市町、魚津市及び黒部市の一部にあ



正面に見えるのが劔岳

る面積一二、三〇〇ハの国有林と、一一〇ハの官行造林を管理しています。

管内の国有林の多くは、天然林と高山帯が占め、人工林は二割となっています。全体的に急峻な地形であることから、国有林の五五割が土砂流出防備保安林に指定され、昭和三〇年代からはじまった治山事業は、現在も三つの支流域で実行されています。

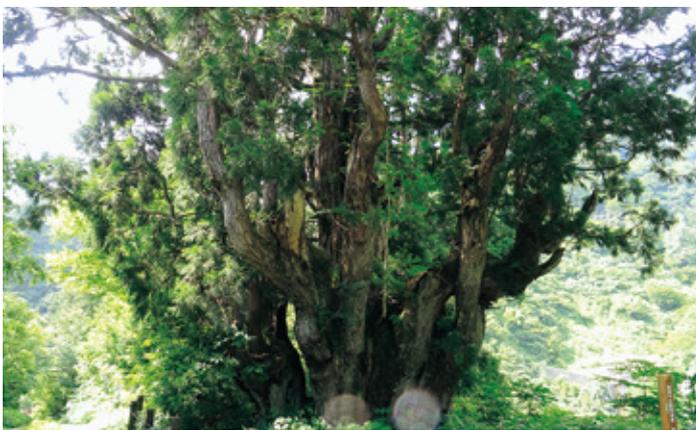
上市町には、標高二、九九九ハの「劔岳」があり、「試練と憧れ」と刻まれた石碑が建つ早月尾根コー



令和3年度 劔岳山開き

スの登山口では、例年六月一日に「劔岳山開き安全祈願祭及び鎮魂祭」が行われます。今年にはコロナ禍のため限られた関係者のみで挙行されましたが、初の試みとして、式典の様子がライブ配信されました。

また、国有林おさんぽMAPに掲載されている中山遊歩道では、立山杉の巨木が並ぶ「五本杉の平」の稜線から眺める大日岳、さらに中山山頂から眺める絶景の劔岳は最高です。



洞杉と呼ばれる巨木

そして、魚津市片貝川の支流である南又谷には、「洞杉」と呼ばれる巨木があり、急傾斜地の岩場や転石に根をからめて、幹を分散して複雑な樹形をした珍しい特徴を持っています。

このような荒々しい地形の国有林を管理する当事務所の業務は、登山道、山小屋、電力会社等への貸付地の確認、国有林と民有林との境界の管理、治山事業の支障木調査やブナの結実調査などが主となっています。

■未来の担い手へのメッセージ
森林事務所の仕事は地域毎に特色があり、また、自然相手のため、結果が出るまでに時間がかかることがあります、それだけにやりがいも感じます。
「国有林」という職場に興味を持っていただけたら幸いです。



森林事務所の前で、筆者

シリーズ

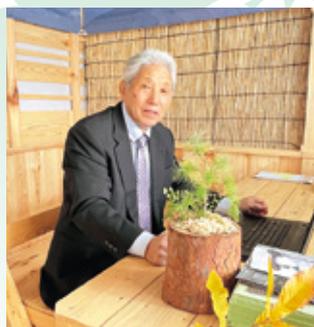
「私の林語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「SDGsと花鳥風月」

ちがらよつぐんげつ



オンサイトック株式会社
代表取締役社長
にしざわ ひさととも
西澤 久友

■自己紹介

昭和の時代。幼い頃は、自然の森に囲まれ、夏は農業、冬は林業。長野営林局・署の職員に同行し、狩猟期の巻狩りや、山の調査などを行いました。伐採現場では、馬による土引き丸太を転がしたりと、トビの扱ひも慣れたもの。山仕事のいろは、この時に伝授してもらいました。

しかし、時代と共に世の中が急変し、大量生産大量消費が美德、環境への配慮は皆無。森は荒れ、海は汚れ、空気まで汚染。高度経済成長優先で地球の自然環境を破

壊して来たことに反省の余地はありません。後世の為に我々は、元の自然環境に戻す活動をするのが必須で、地球に恩返しをしなければなりません。「SDGsと花鳥風月」は、その代名詞。私はその想いを行動に起こします。



昭和20年代の冬の巻き狩り時の様子



昭和30年代の薪づくりの様子

■活動内容

我社は、DIYで事務机や床等、全て木でできた森林浴事務所となっています。これは、森の恵みの証として想い描いた自然の環境を具現化し、結果を残すことが私の使命と考えていたからでしょう。



DIYで木質化した森林浴事務所

木材の更なる活用を行うには、バイオマスだけでなく、木材から抽出されるリグニンに由来する物質の活用に注目しています。特に国内に多く植えられているスギは、「改質リグニンが抽出できて高い環境適合性を有していること」、「生分解性があり環境中に蓄積されないこと」、「製造過程で有害な揮発性有機化合物は使わずカーボンニュートラルの材料として環境問題では優位なこと」などの特徴があり、改質リグニンを世に普及することは、太陽からの恵みを頂くことに繋がります。



超小型EVモビリティカー

弊社取扱いの超小型EVモビリティカーは全て太陽の恩恵です。化石燃料製品に温存することなく

企業として避けて通れない現実を、私は信念と想いを形にし、結果を提示できるように更に邁進していきます。

■メッセージ

SDGsを語る、それ以上に大事なことは、生活三要素の原点を見直し、その結果を出してこそ持続可能な社会の実現に繋がります。自然からのエネルギーを如何に今活用していくか、その為に自分ができることは何か、「温故知新」を形にする為の行動を起こすことを今、必要なこととして感じております。素晴らしい森と海と空気を後世に残せる行動をしましょう。共に！

○連絡先

長野支店 〒三八〇〇九二八
長野県長野市若里二丁目一四一八
TEL〇二六―二六六―〇〇七二
本社 〒三九〇―一二九八
長野県松本市和田三九六七―一〇

モバイルサイトは、以下のQRコードを読み込んでください。



豊かなブナ林

カヤの平等 生物群集保護林

所在地
長野県栄村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

設定目的

台倉山(一、八五三^{メートル})の東南斜面に広がるカヤの平一帯のブナ林は、典型的な日本海型ブナ植物群落です。

また、鳥甲山(二、〇三八^{メートル})は、東・南斜面が切り立った断崖状を成し、赤色の岩肌が露出した特異な景観を呈しており、周囲に亜高山性針葉樹林が広がるとともに、山頂付近には高山植物群落が分布しています。

この地域の貴重な森林生態系の保護・管理を図るため、保護林に設定しています。

地況・林況

カヤの平一帯及び鳥甲山の北西斜面には、ブナ、カンバ等から構成される広葉樹林やクロベ、コメツガ、オオシラビソ等から構成される亜高山針葉樹林となっています。山頂付近にはアズマシヤクナゲ、ツガザクラ、シラタマノキ等の高山植物が生育しています。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第8回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

「お弁当」

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「林業の魅力はメシがうまいことだ」と語る方もいらつしやるようですが、山で食べる弁当は気持ちのいいこともあれば、風雨に晒されて辛いこともあるかと思われま



昭和十一年 林業訓練の若者達の昼食風景
(現在の飛騨森林管理署管内)

昭和三十年代ぐらいまでのお弁当は、お米がとにかく多かつたようで、「柚すまのいっし一升飯」という言葉があつたとされます。また、古い時代には十時と二時頃の二回の昼食をとる習慣もありました。肉や魚といったタンパク質が手しやすくなるにつれて、お米の量は少なくなつていったようです。



大正時代末頃の炊事手
(現在の木曽森林管理署管内)

かつては炊事手(かしき)と呼ばれる仕事があり、手伝いの小僧さんと共に食事や弁当を担当していました。漬物、塩で煮しめ

た豆などのおかずが多く、木で作ったメソバと呼ばれる弁当箱に詰められました。



冬のテント内での昼食
(旧名古屋営林局管内、昭和30年代頃)

時代と共にお弁当の風景も変化し、山の寝泊まりや炊事手による煮炊きも無くなつていきました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介します。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。





中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に、参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれらの事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



有用広葉樹等の保残による植栽面積(本数)の削減

1. ねらい

多様で健全な森林へ誘導するため、皆伐予定地に生育する有用広葉樹を積極的に保残するとともに、保残木の占有面積を植栽面積から除外して植栽本数を削減します。

2. 概要

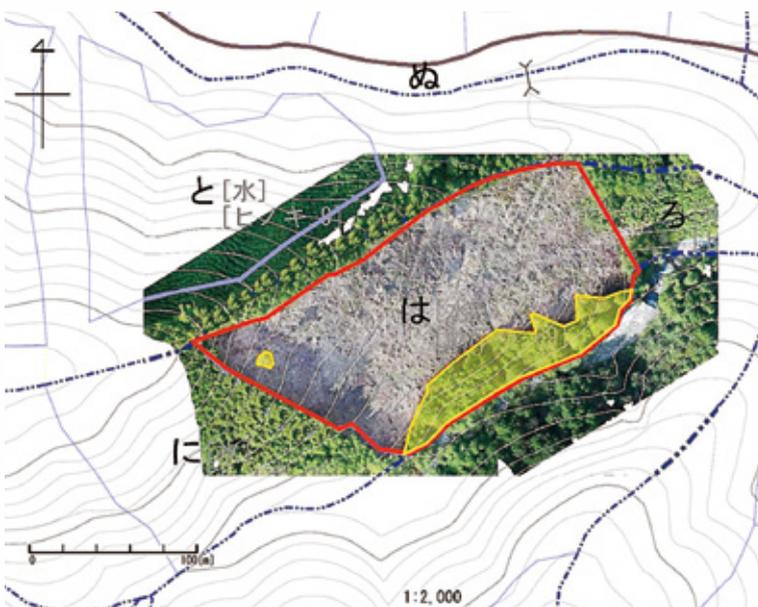
保残する有用広葉樹の占有面積は、ドローンの自動飛行により写真撮影を行い、その空中写真をオルソ画像化することにより確定します。

3. 成果

～モデル事業地での効果の試算～

皆伐面積2.42haから保残木占有面積0.38haを除くことによりヒノキ植栽本数840本を削減することが可能です。

これにより、植付等経費約77万円(植付34万円、地拵17万円、下刈(5回)26万円)を削減することが可能です。



有用広葉樹の保残状況

凡例	
	保育・更新実施対象区域
	更新面積からの控除区域

4. お問い合わせ先

森林整備課 電話 026-236-2566

お役に立ちます
民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ
国有林



国民の森林・国有林

BUZZMAFF 撮影隊が来た!

十一月十一日、BUZZMAFF チャンネルの「もりチル」チーム(林野庁広報室)が当局へ撮影に来ました。今回のテーマは、「きのこ採り(仮称)」です。撮影の詳細は明かせませんが、長野県北部のある山林において、きのこの栽培を行っている方の案内で、きのこの見分け方や、きのこにまつわる楽しい! エピソードを伺いながら撮影を行いました。撮影した動画は、年内公開を目途に編集作業を頑張っているそうです。

「どんな内容になるのか!」「キノコ料理は!」「黄金の力水は登場するのか?」「タケノコに続く、中部局管内の撮影第二弾! 公開をしばしお待ちください。」



ナメコ採れた!

きのこの見分けは...

ここにあるよ!

ヒラタケ大きい!

【BUZZMAFFとは?】

農林水産省職員自らが、省公式 YouTube チャンネルで YouTube となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。

林野庁提供の「もりチル」のチャンネルの登録をぜひ、お願いします。

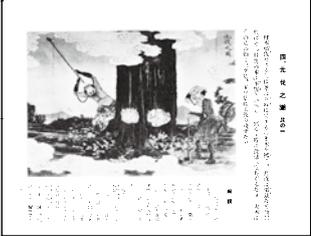


電子版「木曾式伐木運材図会の解説」等をホームページで公開しました。



「木曾式伐木運材図会の解説」令和3年11月発行

広報誌「中部の森林」において、令和二年五月から令和三年四月まで一年間連載した「木曾式伐木運材図会の解説」を電子版としてとりまとめ、さらに絶版となっていた「木曾式伐木運材図会」についての解説資料(昭和二十九年発行)も電子データ化し、当局ホームページにて公開いたしました。



「木曾式伐木運材図会」に関するサイトは、以下のQRコードを読み込んでください。



今月号の表紙の写真 「カヤの平高原の初冬」

今月号の表紙の画像は、一般社団法人 木島平村観光振興局様より、ご提供いただきました。



長野県木島平村の「カヤの平高原」は、周囲を高い山に囲まれ、標高一、五〇〇メートル前後に広がる高原には、日本一美しいとも評されている樹齢二五〇年前後のブナ等の群生林が広がっています。また、周辺には、総合案内所、牧場、キャンプ場などの施設が整備されています。

この写真は、初冬の朝もやの中で、朝日を浴びる樹木の様子を撮影したものです。

【めぐる木島平】
木島平村観光振興局
ホームページ



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

季節は師走! 年の締めくくりをしっかりと終えたいものです。昔、ある上司の机の前に座ると私の方に読めるように「相田みつお」のお言葉が! 「やれなかった やらなかった どっちかな」 う〜ん! 深い! (T.T) 暗黙のプレッシャーか? とりあえず笑ってごまかそう! (^o^) です。まあ! せっかくの師走! 楽しみましょう! もちろん季節がら、スキー、温泉、鍋、やかん(熱燗?)! ストレスをためずにうまく発散! 何事も忙しく過ぎていく師走! 今年のやり残したことはありませんか。「やれなかった やらなかった どっちかな!」 (^_^) ☆

最後に! 今年の締めくくりもデジ森で!
デジタル森林紀行も「黄」から「白」へ衣替え。ぜひ、冬の感動を探しに森へ出かけませんか。お出かけ前に、いつでもお気軽に自宅で森林や自然風景を楽しむことができる「デジ森(もり)」で、美しい風景をチェックしては、いかがでしょうか。

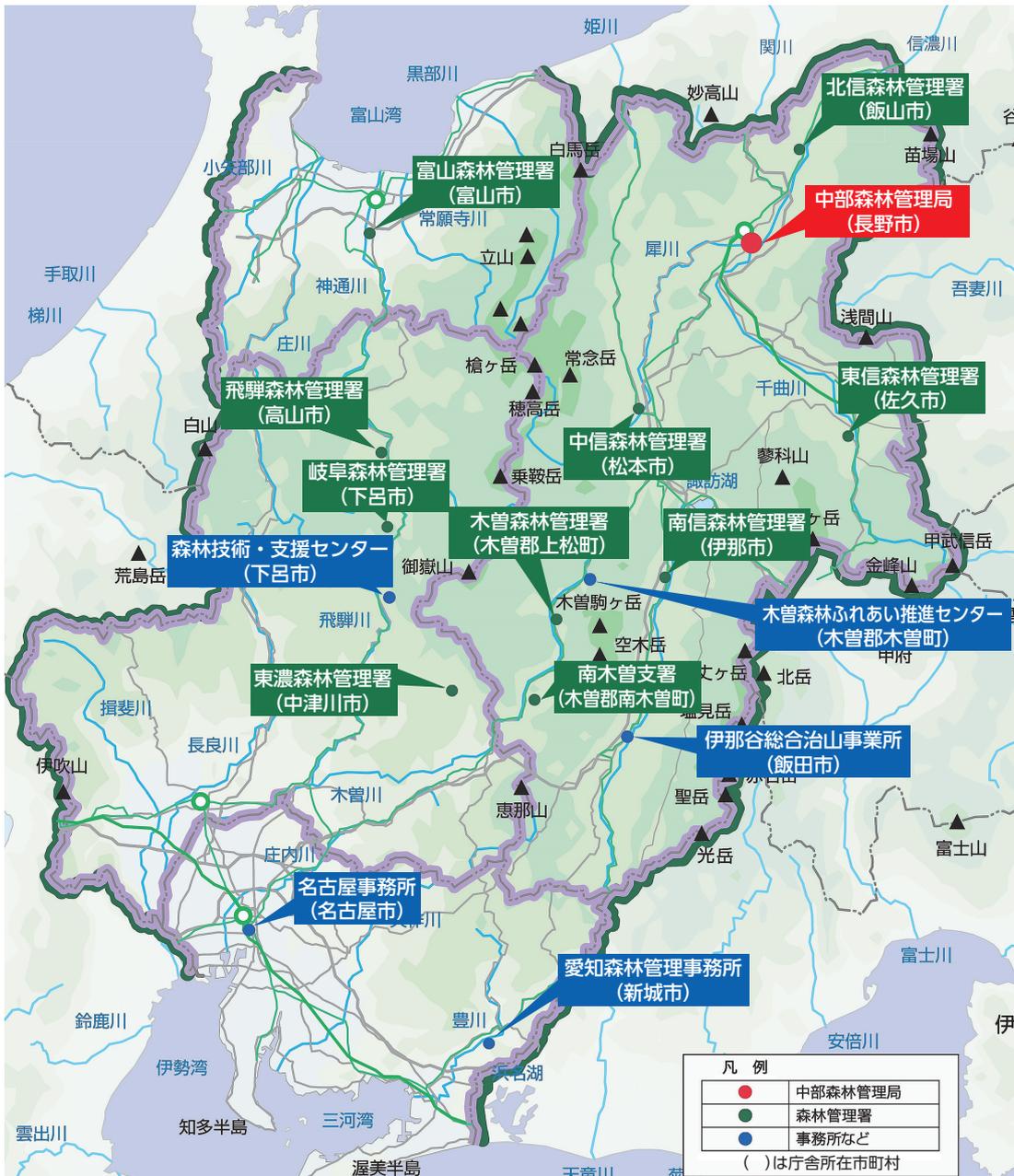


デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。

デジ森 テーマ「白」



26. 雪を纏う初冬の白馬五竜岳 (中信署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。